

10 協働・協創

(1) 「協創」の認知

(2) 協働・協創の実践

(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

10 協働・協創

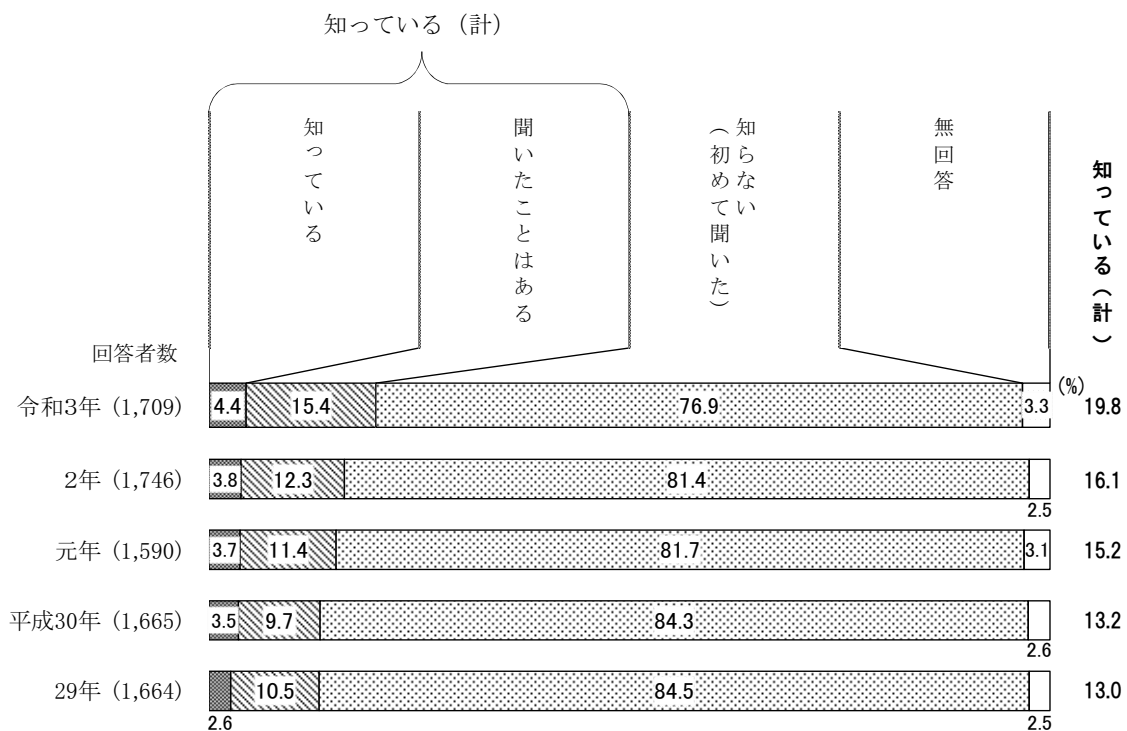
(1) 「協創」の認知

■【知っている】は、平成29年から漸増傾向にあり約2割に

問51「協創」とは、平成28年10月策定の足立区基本構想により打ち出した「区民・団体・企業・NPO・大学など多様な主体がつながり支えあい、自ら行動する」新たな仕組みです。

あなたは、この「協創」を知っていますか（○は1つだけ）。

図10-1-1 経年比較／「協創」の認知



「協創」について「知っている」が4.4%で、これに「聞いたことはある」(15.4%)を合わせた【知っている】(19.8%)は約2割となっている。一方、「知らない(初めて聞いた)」は76.9%を占めている。

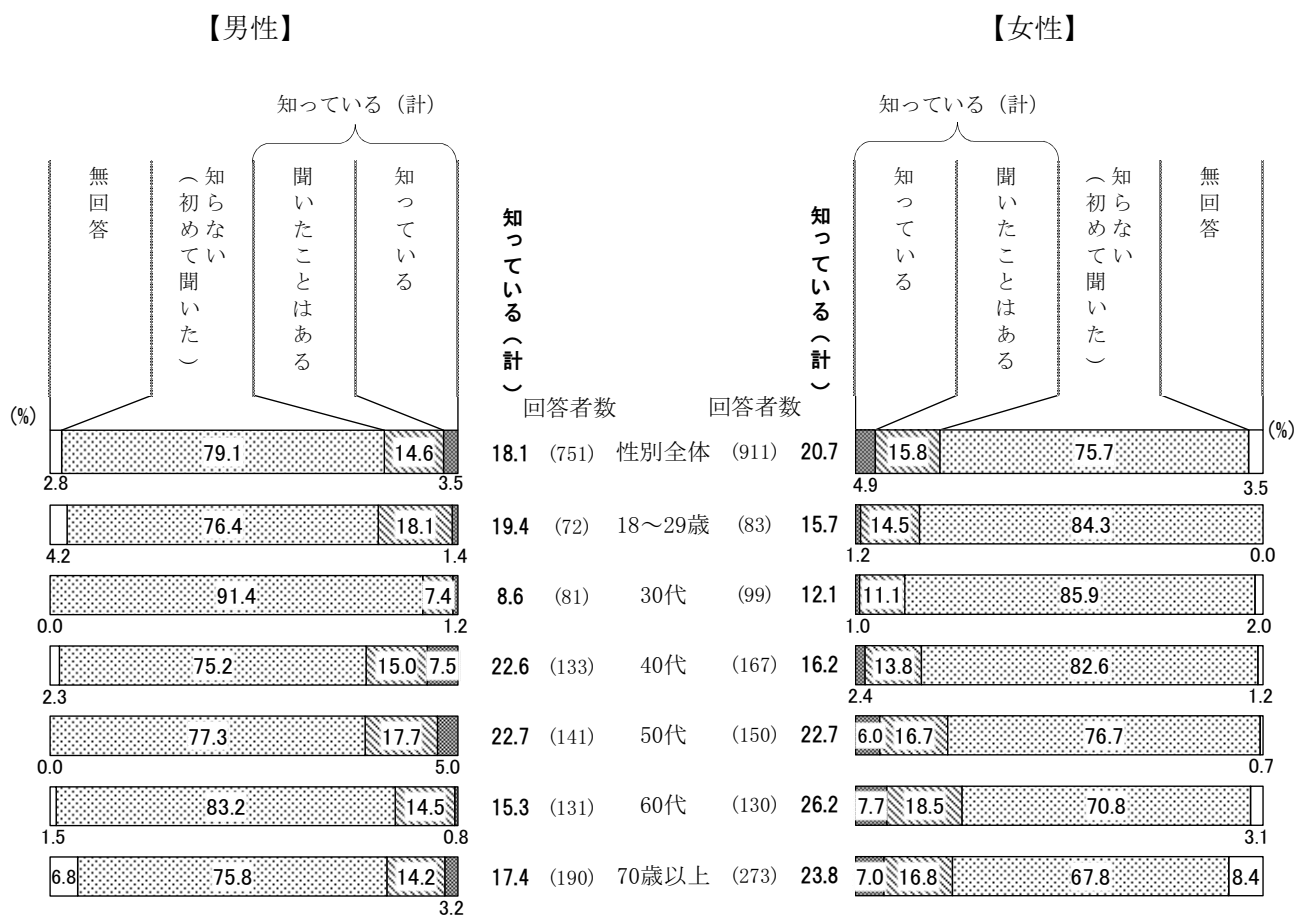
経年でみると、【知っている】は平成29年の13.0%から漸増傾向にあり、前回調査(16.1%)から3.7ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析〈協働・協創〉

性別で見ると、【知っている】は女性（20.7%）の方が男性（18.1%）より2.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は、女性の60代で26.2%と最も高く、次いで女性の70歳以上（23.8%）となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は男性の30代で91.4%と最も高くなっている。

図10-1-2 性別、性・年代別／「協創」の認知

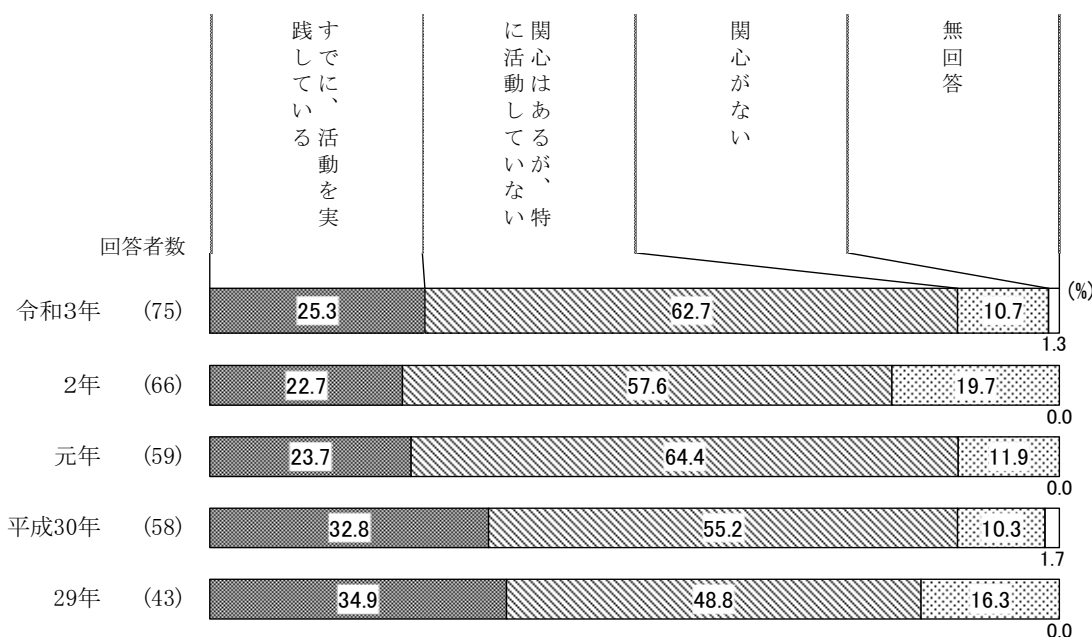


(2) 協働・協創の実践

■ 「関心はあるが、特に活動していない」が6割強と増加、「関心がない」が約1割に減少

問51で「1 知っている」とお答えの方に
 問51-1 あなたは、区役所・区民・団体との協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）を実践していますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）
 （○は1つだけ）。

図10-2-1 経年比較／協働・協創の実践



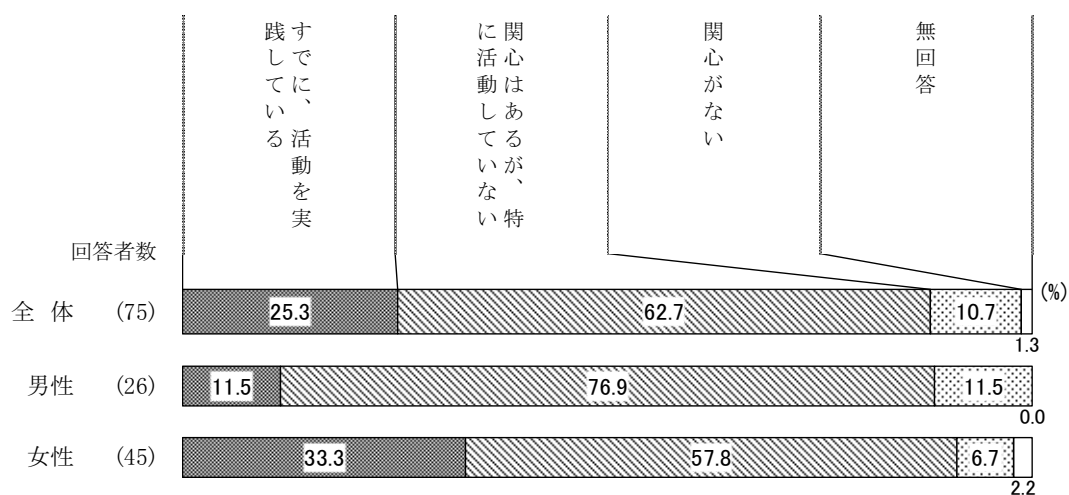
「協創」を「知っている」という人の実践状況をみると、「すでに、活動を実践している」が25.3%で、「関心はあるが、特に活動していない」が62.7%で最も高くなっている。一方、「関心がない」は10.7%となっている。

経年でみると、前回調査に比べて、「すでに、活動を実践している」は2.6ポイント増加、「関心はあるが、特に活動していない」も5.1ポイントの増加となり、一方で、「関心がない」は9.0ポイントの減少となった。

第3章 調査結果の分析〈協働・協創〉

性別で見ると、「すでに、活動を実践している」は女性（33.3%）の方が男性（11.5%）より21.8ポイント高く、「関心はあるが、特に活動していない」は男性（76.9%）の方が女性（57.8%）より19.1ポイント高くなっている。また「関心がない」も男性（11.5%）の方が女性（6.7%）より4.8ポイント高くなっている。

図10-2-2 性別／協働・協創の実践

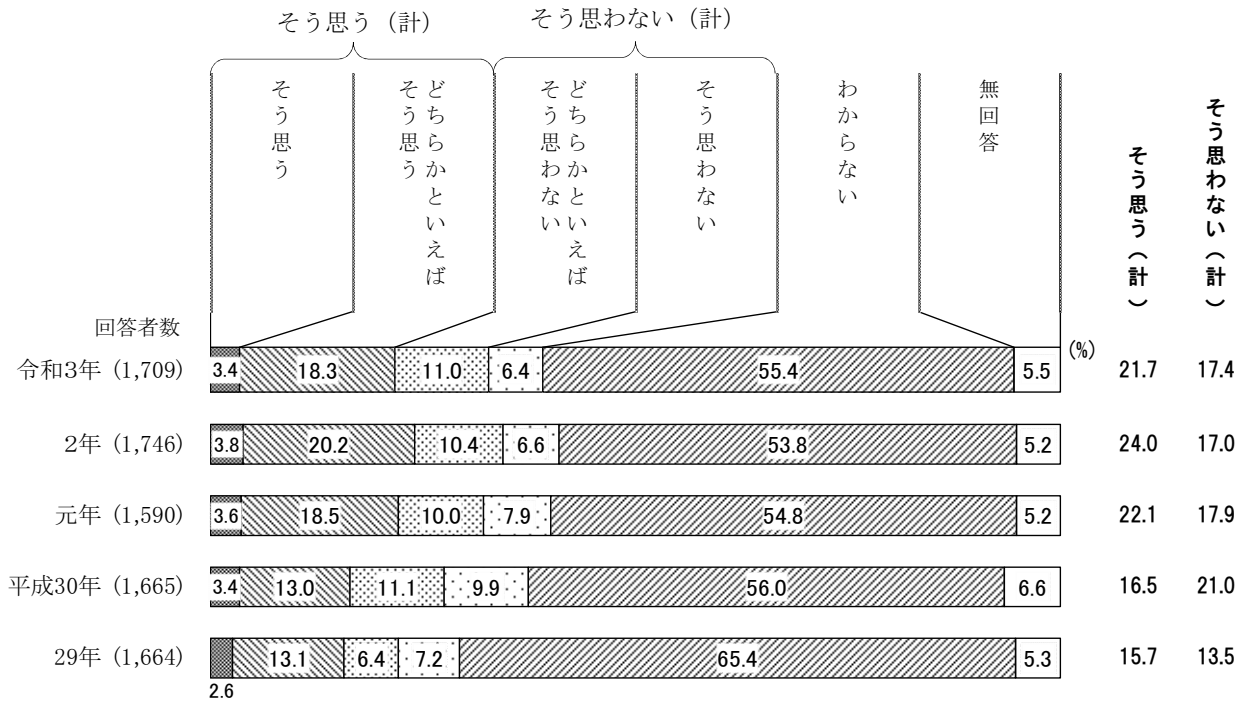


（3）区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

■【そう思う】（2割強）が【そう思わない】を上回っているが「わからない」が5割台で最多

問52 あなたは、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）が進んでいると感じていますか（例 ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフ、子どもの貧困対策など）
 （○は1つだけ）。

図10-3-1 経年比較/区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価



※ 平成30年度の設問文は「あなたは、ビューティフル・ウィンドウズ運動や孤立ゼロプロジェクト、野菜から食べるベジタベライフなど、区役所・区民・団体の協力・連携（協働）や自主的な取り組み・活動（協創）による事業が進んでいると感じていますか。」で、令和元年度には設問文の一部の表現が変わった上に、「子どもの貧困対策」が追加挿入されたが、令和2年度では、更に設問文の一部が、上記設問のように変更された。

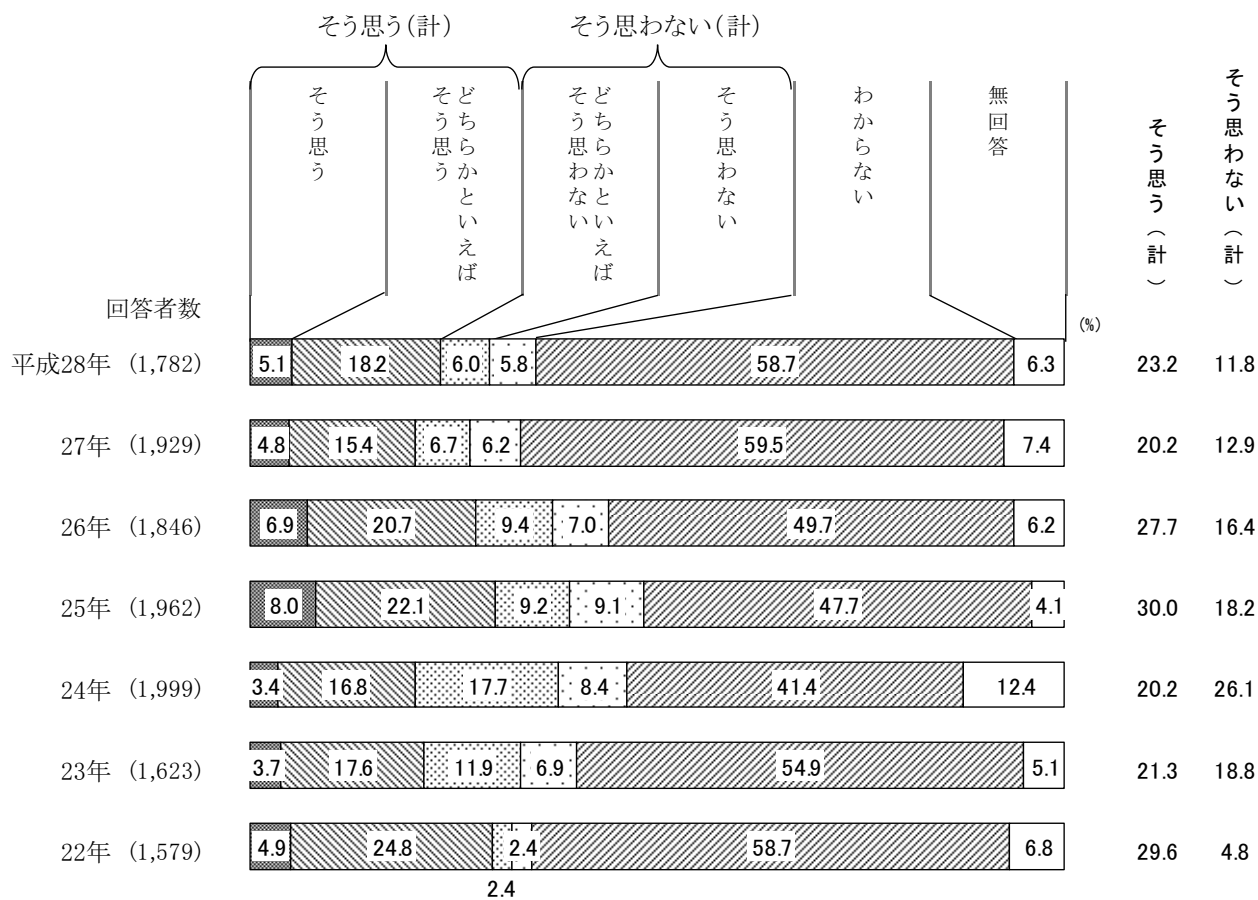
協働や協創による事業が進んでいると感じるかについては、「そう思う」が3.4%で、これに「どちらかといえばそう思う」(18.3%)を合わせた【そう思う】は2割強となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.0%)と「そう思わない」(6.4%)を合わせた【そう思わない】は1割台半ばを超えている。一方、「わからない」は55.4%と過半数を占めている。

第3章 調査結果の分析 〈 協働・協創 〉

設問文が同一の前の令和2年調査と比較すると、【そう思う】は僅かに2.3ポイント減少したものの、回答割合に大きな違いはみられない。

参考／（平成28年以前）区役所・区民・団体との協力・連携（協働）した事業推進の評価

問 あなたは、区役所が孤立ゼロプロジェクトやビューティフル・ウィンドウズ運動など区民・団体と協力・連携（協働）して事業を進めていると感じていますか（○は1つだけ）。



※ 平成28年度までは、「協創」の部分にふれておらず、設問文も違うため、結果を単純に比較することはできない。

協働や協創による事業が進んでいると感じるかについて性別で見ると、【そう思う】は女性（24.4%）の方が男性（18.8%）より5.6ポイント高くなっている。一方、「わからない」は男性（57.4%）の方が女性（53.6%）より3.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【そう思う】は女性の50代以上で2割台半ばと高く、男性の30代（11.1%）と50代（14.9%）で1割台前半と低くなっている。一方、「わからない」は全ての性・年代層で高くなっており、特に男性の30代で71.6%と最も高く、女性の60代（47.7%）と50代（49.3%）で5割未満と低くなっている。

図10-3-2 性別、性・年代別／区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

